性格がクソでも成功出来る理由

嫌な会社の先輩やクソみたいな上司が多く居る世の中ですが、どうしてこのような人種は絶滅しないのでしょう？

「仕事と言えば共同作業であり、チームワークが大事でもあり、周りと上手くやる事が大切だから人格者である必要があるのでは？」と思う人が居るかもしれません。

しかしビジネスとは、人間として出来ている人、善人、聖人だけが君臨する活動ではありません。殺人鬼のような無慈悲さを持った人間でも、能力があれば覇王になれる。

暴君であった覇者の良い例がスティーブ・ジョブズ氏です。

彼は嫌な奴だったかもしれませんが、歴史上で最も優秀なCEOと言われる位の手腕があった。多少なりとも性格的な難があろうと、巨大過ぎる翼の足かせにはならない。

何が言いたいか？

市場はあなたが、小卒だろうと罪人だろうと気にしはしない。能力があれば高い確率で成功する。

しかし、優しいだけの先輩が、人が良いだけの職場の同僚は、常に苦難する。

何故なら、ビジネスと言う怪物に食事を与えるのは結果を出す者。結果を出す者が現代人が思う悪人だろうと善人だろうと、ビジネスは飯が食えればどうでも良い。

だからこそ、確実に成功したいなら、能力を付けろ。求められた仕事を卒なくこなし、誰よりも高い価値を提供する位の圧倒的な力を手にしろ。

そうすれば、媚びを売ったり、上司の機嫌を伺ったり、社内政治に身を焼く必要が無くなる。

ただもし、ジョブズ氏がその能力に加えて、モハメド・ガンディー氏やデレク・ジーター氏ばりの人格者であったら、どうなっていたのでしょうね？アメリカの国王にでもなっていたかもしれません。

なら、目指すべきは、能力者と人格者の双方である事は間違いないかもしれませんね、何故なら、

ジョブズ氏は一度、商品の売上不振の責任を取らされて、イカロスの如く羽を焼かれている（社内での権力を役員に奪われて、それに耐えられず、ジョブズは会社を去った）。

力だけで上り詰めた人間が力を失えば、墜落して死を迎えると言う事をお忘れなく。